２．事業の概要と成果	
（１）上位目標の達成度	一般的にミャンマーの農民には貯金するという考え方がない中で、IDACA プロジェクト事業対象の３村の農家は、貯蓄グループを５つ組織し共同貯蓄始めた。このグループが将来的に農協のような事業活動ができる組織になることによって上位目標へ到達することができる。１年度目はそのための第１段階と位置付ける。
（２）事業内容	（ア）共同購入・共同利用のための農家グループの組織化 ワークショップなどで、農機の共同購入のための共同貯蓄について農民たちの理解を図り、貯蓄グループづくりに取り組んだが、事業対象３村で５つの貯蓄グループの結成にとどまった。 （イ）各種ワークショップの開催および外部ワークショップへの参加など ①　貯蓄ワークショップを下記のとおり開催した。 実施日：６月２９日～３０日 場所：ウンドウイン・タウンシップのタピエダ村 参加者：２０名（男１４、女６） テーマ：プロジェクトの目的と貯蓄活動、貯蓄グループづくり、役割の決定など ・この研修を基本にしてタッコン村、トンテイ村、シンマカウ村で貯蓄グループづくりをすすめた。 ②　協同組合ワークショップを下記のとおり開催した。 実施日：８月５日～７日　場所：ネピドー 参加者：２５名（男１３、女１２） ・当初、各村での実施を予定していたが会場をネピドーに変更し、事業対象３村の農民リーダーだけでなく、タウンシップ事務所、協同組合事務所、農業事務所、全国協同組合中央会関係者などの参加を得た。 ③　外部ワークショップへの参加 協同組合省主催「農業機械化ワークショップ」 実施日：６月９日　場所：ネピドー参加者：農民リーダー４名（男） ・これに参加することで農民が希望する農機はアフターサービスがある日本製という認識が深まった。 ④　視察研修会の実施 農業用水の確保に悩む農民たちとの共同企画で下記の視察研修を行った。 場所：「JICA Water Saving and Water Harvesting Project」 実施日：５月１日～２日 参加者：ウンドウイン・タウンシップのタピエダ村の農民たち２５名（男１２、女１３） ・研修２日後には参加者の３人（男１、女２）が８つのため池を独力で作った。この行動を JICA プロジェト関係者は高く評価し、６月１９日にはタピエダ村を訪れ、ため池を視察し改善指導を行った。これは農民と研究施設の交流が実を結んだ数少ない例となり、村人にとって大きな励ましとなった。

	⑤　IDACA プロジェクトまとめのワークショップの開催 ・マンダレー地域：ウンドウイン・タウンシップ、タピエダ村 実施日：２０１６年2月5月　参加者１０名（男9、女1） ・ヤンゴン地域：チャウタン・タウンシップ　シンマカウ村 実施日：２０１６年2月3日　参加者１０名（男6、女4） ・ヤンゴン地域：トンテイ・タウンシップ　ヤンゴンパーク村 実施日：２０１６年2月4日　参加者１３名（男8、女5） （ウ）本邦研修などを下記のとおり実施した。 ①　本邦研修 実施日：8月２３日～３０日 場所：IDACA 本部 参加者：１１名（男5、女6）事業対象村のリーダー農民、フィールド・オフィサー、ミャンマー全国協同組合中央会、IDACA ミャンマースタッフ 視察先：桜井機械化利用組合、鎌倉農協野菜直売所、JA かながわ西湘南、JA はだの、JA グループ神奈川教育センター、農家訪問など ②　村でのシェアリング・ワークショップとタウンシップ会議 本邦研修で学んだことを報告し共有するために下記のとおり開催した。 ・マンダレー地域：ウンドウイン・タウンシップ タピエダ村シェアリング・ワークショップ、 実施日9月１３日、参加者２６名（男１５、女１０） タウンシップ会議　実施日：9月１５日 参加者：１６１名（男１４０、女２１） ・ヤンゴン地域：チャウタン・タウンシップ シンマカウ村シェアリング・ワークショップ 実施日9月２９日、参加者２８名（男２０、女8） タウンシップ会議　実施日：9月３０日 参加者１１９名（男6、女５６） ・ヤンゴン地域：トンテイ・タウンシップ ヤンゴンパーク村シェアリング・ワークショップ 実施日１０月１３日　参加者２５名（男１７、女8） タウンシップ会議　実施日：１０月１４日 参加者１２１名（男１１４、女7） （エ）米の生産性向上指導 ①　米の収量増のための土壌分析ワークショップを下記のとおり開催した。 ・「米の収量増のための土壌分析ワークショップ」 　（主催：IDACA ミャンマー） 講師：小祝正明　（株）ジャパンヴバイオファーム代表 実施日：3月３１日～4月2日　場所：ネピドー 参加者：IDCA プロジェクトのリーダー農民、タウンシップ・郡農業事務所関係者、協同組合省関係者など　参加者３５名（男２０、女１５） ・イエジン農業大学でのワークショップ 実施日：3月３０日　場所：ネピドー　参加者：イエジン大学の土

	壌管理を専門とする学生１２名（男３、女９） ・農業灌漑省農業研究所でのワークショップ 実施日：４月４日　場所：ネピドー 参加者：９名（女性研究員） ②　村での土壌分析ワークショップを下記のとおり開催した。 ・マンダレー地域：ウンドウイン・タウンシップ、タピエダ村 実施日：４月９日　参加者名７２名（男５８、女１４） ・ネピドー連邦直轄領タッコン・タウンシップ、タヤウピニン村 実施日：４月１０日　参加者：５５名（男２７、女２８） ・ヤンゴン地域：トンテイ・タウンシップ、　ヤンゴンパーク村 実施日：４月１１日　参加者：２５人（男２０名、女５名） ③「種まきごんべぇ」実演ワークショップを下記のとおり開催した。 ・ネピドー連邦直轄領：タッコン・タウンシップのイ・アエ村 実施日：４月２９日　参加者：２８名（男１８、女１０） ・マンダレー地域：ウンドウイン・タウンシップのタピエダ村 実施日：４月３０日　参加者：３０人（男１７、女１３） ・手押し式「種まきごんべぇ」（日本製）は各村の土壌が固い上に、ミャンマー産の種の大きさが統一されていないので、実際の活用に適さなかった。 （オ）運営委員会を下記のとおり開催した。 ・第１回運営委員会 実施日：２０１５年３月１１日　場所：ネピドー　参加者：農民リーダーなど１６名（男１０、女６） 内容：運営委員会の目的、IDACA プロジェクトの進め方 ・第２回運営委員会 実施日：５月３日　場所：ネピドー　参加者：農民リーダーなど１８名（男１０、女８） 内容：IDACA プロジェクトの進捗状況と本邦研修 ・第３回運営委員会 実施日：８月７日　場所：ネピドー　参加者：農民リーダーなど１２名（男７、女５） 内容：半年間の進捗状況と本邦研修の参加者の紹介 ・この会議はリーダー農民がタウンシップの行政官と意見交換する場として、プロジェクト推進にとって大きな役割を果たした。
（３）達成された成果	(ア）貯蓄グループの形成 目標とした１５貯蓄グループは５つのグループ結成にとどまった。しかし、この国の農民は作付け前に政府から営農資金が貸付けされるが、収穫時に返済が義務付けられているのに加え、高い農薬代などは小売業者から前借りし、返済を優先せざるを得ない中で貯蓄する余裕がないこともあって、一般的に農村では貯蓄する習慣がない。このような状況の中で、IDACA プロジェクトに参画することにより、これらの５つの貯蓄グループが農機等を購入するという目的を持って、自主的、継続的に貯蓄を始めたことは意識改革による行動変容であり、画期的な成果である。

	（イ）ワークショップへの女性の参加 ワークショップへの農家参加者は累計で約４００名、女性の参加割合が約４０％であり、目標の５０％には至らなかったが、５つの貯金グループのうち、２つは女性中心のグループであることから、農民の生活向上に向け、一定の成果を得ることができた。 （ウ）米の収量増加と優良事例集の配布 実施した専門家による土壌分析技術が農家にとって難解なものであったことや、土壌改良への知識不足等により、具体的な収量増加につながらなかった。また、米の反収増加のための実験圃場の設置が一か所だけとなり、その圃場も７月の大洪水により施肥後の圃場が流されたことから、測定不能となった。このため、優良事例集の作成・配布につながらなかった。